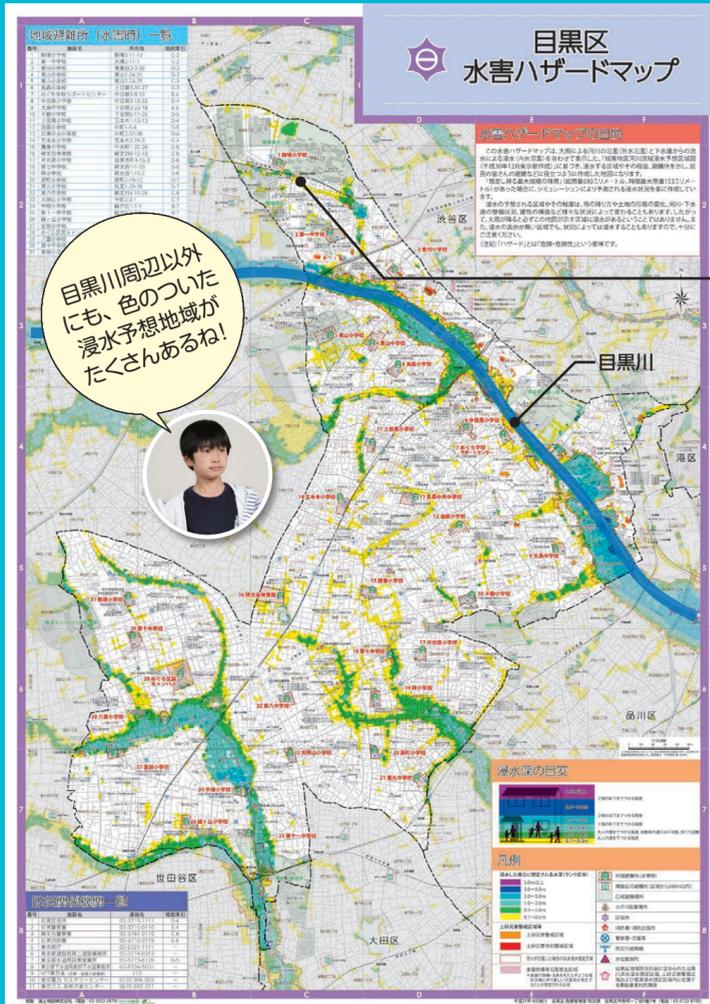


特集 風水害対策

できていますか？
大雨への備え

川の近くに
住んでいないけど...

大雨による氾濫というと、護岸を乗り越えて水があふれることをイメージする方が多いかもしれません。しかし、近年では日本各地で大型台風やゲリラ豪雨といった1時間に50ミリ以上の降雨が多発し、下水道本管で処理しきれずにあふれたり、逆流したりする内水氾濫が発生しています。水害ハザードマップ(下図)のように、目黒区でも川から離れた地域で浸水被害の危険性があることが分かります。
国土防災課(☎5723-8700、☎5723-8725)、道路公園課補修調整係(☎5722-9775、☎3712-5129)



目黒区
水害ハザードマップ

原因は
内水氾濫!



▲平成26年6月のゲリラ豪雨で冠水した駒場東大前駅の様子

本当に
こんなことが
起きるんだ

内水氾濫の仕組み



市街地などで短時間に局地的な大雨が降ると下水道本管で処理しきれず、あふれ出した雨水が建物や土地、道路などを水浸しにします。水害によって被害を受けるのは、川の近くだけではなく、川から離れた場所に住んでいても、自宅が浸水する可能性があります。

自宅でできる 水害対策

過去には、区内でもトイレや排水口で起きた水の逆流による浸水被害が出ています。家庭内での水の逆流は、簡単に作れる水のうで防ぐことができます。また、ベランダや玄関などへの浸水も家庭にあるものを上手く使うと軽減することができるので、覚えておくと安心です。



ポコポコ音がしたら要注意!

水のうで逆流防止!

水のうは下水道管からの逆流を抑える効果があります。ゴミ袋に水を入れて縛るだけなので簡単に作れます。厚手の袋がお勧めですが、薄手のものでも2~3枚重ねることで耐久性がアップします。



ベランダや玄関での浸水対策



- ① 浸水を防ぎたい場所にブルーシートなどを敷く
- ② 水を入れたポリタンクや、水のうを入れた段ボール箱などを隙間なく置く
- ③ 流れてくる水に流されないよう、シートを外側から内側に向かって巻き込む

土のうの積み方を覚えよう

区内全域に配置している緊急用土のうの取り扱い方や、家庭でできる浸水防止対策についての解説動画を区公式YouTube「めぐるTV」(コード①)で配信しています。

土のうの保管場所を知っておこう

緊急用土のうは区内61カ所、合計8,700袋を用意しています。詳細は区HP(コード②)をご覧ください。



でも、
気を緩めちゃ
ダメだよ

自宅や周辺は大丈夫？ 浸水の危険性を知っておこう

台風やゲリラ豪雨が発生したとき、自分が住む場所はどれくらい被災する可能性があるのかを事前に知っておくことが大切です。また、万一来に備え、風水害時の避難所などを確認し、すぐに行動を起こせるように準備しておくことも欠かせません。まずは、どのくらい風水害対策を知っているか、右のチェックリストでチェックしてみましょう。

1つでもチェックがつかなかったものがあった場合は、3面の防災情報7つ道具で確認しておきましょう。



防災力チェックリスト

- 水害ハザードマップ・土砂災害ハザードマップで自宅の危険性を確認したことがある→詳細は 1 2 3
- 水害ハザードマップ・土砂災害ハザードマップをダウンロード済みまたは持っている→詳細は 1 2 3
- 土のうの保管場所を知っている→詳細は 3 4
- 避難所開設状況の確認方法を知っている→詳細は 4 5
- 防災地図アプリをダウンロードしている→詳細は 4

※3面の防災情報7つ道具 1~7 で確認しましょう

●防災情報 7つ道具●

- 1 水害ハザードマップ**
浸水が予想される区域や程度などを掲載
- 2 土砂災害ハザードマップ**
土砂災害の警戒区域や避難方向などを掲載
- 3 防災行動マニュアル**
風水害、地震などの防災のための情報をまとめた冊子。水害・土砂災害ハザードマップも掲載
- 4 防災地図アプリ**
各種ハザードマップの閲覧や避難所の開設状況、避難所までのルートなどを確認できる。災害時には避難情報などを発信
- 5 避難所開設状況サイト**
避難所の開設状況、避難所までのルートを確認できる
- 6 防災気象情報**
気象情報(注意報・警報)や目黒川のライブカメラの映像を確認できる
- 7 防災気象情報メール**
注意報や警報、河川水位情報などをEメールで配信



1~3は、総合庁舎本館1階区政情報コーナー、防災センター(中央町1-9-7)で配布しています

事前の備えが 大切です

内水氾濫は、大きな川から離れた場所でも発生します。

目黒川以外に大きな川がない目黒区で内水氾濫をイメージするのは難しいと思いますが、そんなときに参考になるのが水害ハザードマップです。川に面していない地域でも浸水が予想されており、自宅近くの危険を知ることができます。もちろん、ハザードマップ上で浸水が予想されていなければ絶対に安全というわけではなく、普段からの備えは欠かせません。

日頃から、左の防災情報7つ道具をうまく活用し、避難所や避難経路、連絡手段などをご家族と一緒に確認するほか、万一来に備え、家庭でもできる対策を考えておくことが大切です。



地域防災推進担当課長 濱本